



日本SPF豚協会だより

Report of JAPAN SPF Swine Association 2005.7 第20号

社員(代議員)総会を終えて

法人1年生のスタート

有限責任中間法人日本SPF豚協会 会長 赤池 洋二

今年度は有限責任中間法人としての日本SPF豚協会最初の事業年度となります。法人化したことによって、協会に対する世間一般の態度が、子供扱いから一転して大人に対するものに劇的に変化しました。このことは今後、「国産SPFポーク」の信頼性を高めるのに大いに役立つものと期待されます。

協会は法人としての第1回代議員総会を6月16日に開催して新役員を選任し、平成17年度の事業計画および予算を採択しました。

今年度の事業計画は大きくふたつの分野に分けられます。ひとつは、「SPF養豚は豚肉の安全・安心の確保という社会のニーズに応える理想的な生産システムである」ということを、強くPRするよう努めることです。その一環として、「国産SPFポークセミナー」(11月24日開催予定)にはなるべく多くの一般消費者に参加を呼びかけます。また、SPFポーク販促用リーフレットの制作も計画しています。

もうひとつは、われわれSPF豚生産者側のレベルアップを図りながら、正確な生産情報を発信していくことです。

協会は昨年度から、疾病対策や薬品使用制限などを強化した新しい認定基準を実施していますが、認定申請に添付された生産成績の集計結果を全会員にフィードバックすることを試みます。

このことによって個々の農場では、認定農場全体の中で占める生産成績の位置を推定できると同時に、どの部門をどう改善すれば総合評価がどう変わるか直ちに判断し、経営の改善に役立てることができるようになります。

また、最近、協会のホームページを通じてSPFポークに対する問い合わせが増えていきます。これに応え

ると同時に、会員の生産情報発信をサポートする一助として、協会ホームページ上に会員農場のプロフィールと生産情報を可能な限り掲載することに努めます。そこに掲載されるSPF養豚の解説と、生産されたSPFポークの情報を充実させることによって、一般消費者がSPF豚の正しい知識を得ると同時に、個々の農場の生産情報に接することができるようにし、SPFポークの消費拡大につなげていきたいと思えます。

協会自体もさることながら、会員の皆さんがそれぞれいろいろな機会をとらえて、消費者に語りかけることが特に重要です。また、このようなPR活動は、すべての会員の皆さんが、気長に、かつ地道に続けてこそ効果が現れるのではないのでしょうか。

協会としては、今年3月の事務所開設によってようやく法人の体裁が整いました。いよいよこれからが正念場です。

任意団体として日本SPF豚協会が設立(昭和44年10月)されてから30有余年、協会活動は各生産ピラミッドおよび関係各位の、SPF養豚に対する熱意とボランティア精神によって支えられてきました。しかしながら、社会のSPF豚に対する関心が高まる中で、SPF豚農場認定制度の客観性と正確性が厳しく求められるようになったことなどに対応するため、協会の法人化に踏み切ったわけです。その結果、各ピラミッド、会員の皆さんには大幅な会費値上げをお願いし、ご了承いただきました。

とはいえ、法人としてようやく一歩を踏み出したばかりです。ようやく自前の事務所と事務局を持つにたったものの、体制は依然として脆弱といわざるを得ません。会員の皆さんには、今後なお一層の絶大なご支援とご協力を引き続きお願い申し上げます。

協会法人設立後初の総会(代議員会)を開催

当協会が「有限責任中間法人」として設立してから初めてとなる第1期社員（代議員）総会が、去る6月16日（木）東京都千代田区の東京共済会館において開催されました。16年度の事業経過および決算報告が承認され、事業計画が打ち出されましたのでその概略をご報告します。

(会員の皆さまには議案と議事録をすでにお送りしてあります)

平成16年度事業経過報告

日本SPF豚協会にとって、平成16年度は記念すべき年になりました。それは昭和44年に任意団体として出発した当協会が永年の夢であった法人化を実現できたからです。平成16年度総代会において中間法人法にもとづく有限責任中間法人設立を提案し、全会一致で了承されました。引き続き7月の臨時総代会において会費改定と新法人定款の骨子が承認され、平成16年10月5日に登記手続きを完了しました。その後、事務局の独立・移転に取り組み、平成17年3月18日に現住所への引越しが完了しました。

この間、協会事業の柱であるSPF豚農場認定事業は順調に推移し、6月、9月、12月、3月にそれぞれ認定委員会を開催しました。3月末現在認定農場数は172農場で総飼養母豚数は68,093頭となりました。これは前年度より農場数で6農場、飼養母豚数で5,604頭増加したことになります。わが国の養豚界（現在8,000戸弱と推定）に占めるSPF豚農場の割合は2.15%に過ぎませんが、飼養母豚数（全国で約920,000頭と推定）では、約7.4%を占めるようになっております。

協会事業のもう一つの柱である「SPFポークセミナー」はテーマにトレーサビリティをとりあげ、11月9日に東京大手町のJAホールで開催しました。参加者はセミナーに220名、レセプションに158名の参加があり、予想を上回る盛会となりました。このセミナーに関して特筆すべきことは、協会発足以来、初めて助成（100万円）を(財)農協流通研究所から受けたことです。

協会だよりは予定どおり、4、7、10、1月に発行しました。

1. 平成16年4月30日(金) 理事会
東京都中小企業振興公社 第3会議室

2. 平成16年6月3日（木） 認定委員会および理事会
東京都中小企業振興公社 第3会議室
48農場認定

3. 平成16年6月15日（火） 総代会および理事会
東京都中小企業振興公社 第3会議室

4. 平成16年6月24日（木） 協会法人化等準備委員会
東京都交通会館第二会議室

5. 平成16年7月12日(月) 理事会
東京都中小企業振興公社 第3会議室

6. 平成16年7月30日(金) 臨時総代会および理事会
東京都中小企業振興公社 第3会議室

7. 平成16年8月24日（火）
日本養豚学会賛助会員入会

8. 平成16年9月9日（金） 認定委員会および理事会
東京都中小企業振興公社 第3会議室
42農場認定

9. 平成16年10月4日（月）
東京都中小企業振興公社 第3会議室 臨時総代会

10. 平成16年10月5日(火)
有限責任中間法人 日本SPF豚協会設立登記

11. 平成16年10月7日（木）
有限責任中間法人日本SPF豚協会設立総会
理事会
東京都中小企業振興公社 第3会議室

12. 平成16年11月9日(火) 国産SPFポークセミナー
千代田区大手町 JAホール

13. 平成16年11月29日(月)
「E型肝炎に関する（中）日本SPF豚協会の対応について」を全会員およびピラミッド関係者へ発送

14. 平成16年12月2日（木） 認定委員会および理事会
東京都中小企業振興公社 第3会議室
52農場認定

15. 平成17年1月24日（月）ピラミッド委員長連絡会議
東京都中小企業振興公社 第3会議室
16. 平成17年2月25日(金)
協会ホームページ運営管理委員会
東京都交通会館会議室
17. 平成17年3月4日(金) 認定委員会および理事会
東京都中小企業振興公社 第4会議室
30農場認定
18. 平成17年3月9日(水)
協会HPの充実（認定農場プロフィールの掲載）に関する協力要請を全会員に発送。
19. 平成17年3月18日（金） 事務所移転
3月22日より業務開始

平成17年度事業計画

1. 認定事業の推進

1) 認定委員会の独立性の強化

S P F 豚農場認定委員会は元来、独立して認定業務を遂行する機関ですが、現状では必ずしもそうになってはおりません。あるべき姿に少しでも近づけるためには認定委員会の独立性と権限強化を図る必要があります。具体的な施策については、理事会、認定委員会等において討議を重ね、実行していきます。

2) 認定委員会の開催

昨年度に引き続き、S P F 豚農場認定事業を推進していきます。認定委員会は例年どおり、6, 9, 12, 3月の計4回開催します。

3) 診断基準（防疫設備、防疫管理）の判定方法を統一するための研究会（勉強会）を各地で開催し、認定委員会の決定にもとづいて認定農場の実態調査を開始

2. 認定成績集計結果のフィードバック

S P F 豚農場認定申請にともなって提出される生産成績を集計して、その結果を各会員（当該農場以外は匿名）にフィードバックします。自農場の生産性が認定農場全体の中でどの位置にいるのか、また、どの部分を改善すれば生産性アップにつながるのかなどを正確に知ることができます。

3. 「国産S P F ポークセミナー」の開催

企画・実行委員会を組織して、直ちに計画立案に着



手します。（開催予定：11月24日）

4. 『協会だより』の発行

19号（4月）、20号（7月）、21号（10月）、22号（1月）を発行します。

5. 「販促用パンフレット」の制作

1) 協会パンフレットは制作以来年数を経ているので改訂を検討し、新たに制作する必要がありますが、当面はホームページの充実で対応します。今年は、昨年度計画しながら、諸般の事情により実行できなかった販促用パンフレット制作を重点的に進めます。

6. 協会ホームページの充実

本年度の最重点事業として、協会ホームページの充実を図ります。特に認定農場のプロフィール生産情報を掲載することによって、S P F 豚に対する消費者の理解を深めることに力を入れます。これは、協会が会員にお願いして掲載するのではなく、会員の自由意志による掲載が極めて重要であり、ホームページ運営管理委員会に積極的な活動を期待します。協会はホームページを会員の情報公開の場として提供し、その構成や内容の設定に全面的に協力していきます。

7. S P F 豚肉の正しい知識の普及

昨今、食の安全に対する関心の高まりに乗じて、必要以上にS P F ポークの安全性を誇張した文言が食肉流通業界で目に付くようになっていますが、協会としては、すべての会員が一致協力してあらゆる機会をとらえ、S P F 養豚の仕組みと生産情報がわかるような正しい「S P F ポークに関する知識普及」に努めます。

8. その他

S P F 養豚およびS P F ポークの普及・販売促進に即応できる協会をめざして会員の努力を結集することに努めます。

（第1期代議員名簿を7ページに掲載）

大腸菌症

全農家畜衛生研究所 奥田 陽

豚の腸管内に存在する大部分の大腸菌は非病原性ですが、病原因子を保有する特定の菌株が豚に対して病原性を示します。その病態から大腸菌性下痢、大腸菌性腸管毒血症（浮腫病）および大腸菌性敗血症に大別されます。

大腸菌症は出生直後から離乳期までの子豚で多発することから、その病態を問わず死亡や発育不全などの原因となり、対策のための薬品代などを含め大きな経済損失を与える重要な疾病のひとつです。今回は特に大腸菌症の中でもっとも一般的な大腸菌性下痢について紹介します。

大腸菌性下痢は生後2週間以内の新生豚に発生する新生期下痢と、離乳豚に発生する離乳後下痢に分けられます。生後2週間以内に発生する下痢の原因はいろいろと考えられますが、その内の25～35%が大腸菌による新生期下痢と言われています。

発病する日齢によってその被害は異なりますが、3日齢以内に発病すると死亡率は70%以上にもなります。原因となる病原性大腸菌を母豚が保有していた場合、その糞便が感染源となり同腹の子豚が同時に感染、発病することになります。

下痢のみられた子豚は毛づやが悪くなり、体表に糞尿による汚れが目立ってくるようになります。発育は完全に停止し、病勢が進み水様性の下痢に陥ると脱水状態になり死亡に至ります。

離乳後下痢は離乳のストレスや餌の切替えに伴う腸管内環境の変化、消化吸收障害などが誘引となって、離乳後3～14日目に発生がみられます。発生率は20～50%と高く、常在的に認められます。死亡率は10%以

下と新生期下痢と比較して低いのですが、他の病原体と混合感染すると下痢が長期化します。下痢便は灰白色または黄色の軟便あるいは泥状便で、水様性になることは少ないようです。下痢のほかに、栄養状態の良い豚が突然急死することもあります。これは、異常に増殖した病原性大腸菌の毒素によるショック死と考えられています。

下痢の原因は、大腸菌が産生する毒素（エンテロトキシン）で、この毒素には易熱性（LT）と耐熱性（ST）があります。最初に述べたように、豚の腸管内には非病原性の大腸菌が多く存在しているので、診断にはこの毒素を産生する大腸菌の検出が必要になります。

子豚の下痢の原因となる病原体は、病原性大腸菌以外にも数多く存在しています。以前ご紹介した豚伝染性胃腸炎（TGE）や豚流行性下痢（PED）、豚ロタウイルス感染症といったウイルス性の下痢や、サルモネラ症やコクシジウム病などと鑑別することが重要です。

治療としては、脱水を防止するための補液や薬剤投与があります。初期の治療は効果が期待でき、また、同時に一見健康な同腹の子豚に対して予防的に投薬することも有効です。

しかし、薬剤投与は原因となる大腸菌の薬剤耐性化に十分に注意を払う必要があることから、薬剤の選択や投与にあたっては管理獣医師に相談して下さい。さらに、予防としては日頃の衛生管理を適正におこない、豚舎内に存在する病原性大腸菌の数を減らすことが重要です。

糞尿処理問題を考える④

伊藤忠飼料(株)研究所 竹内 拓朗

悪臭発生防止のポイント

畜産で発生する臭気は不快感を与え、影響範囲が広いケースが多いため、畜産が原因で発生した苦情の件数では、悪臭が最も多くなっています。そこで、今回は悪臭発生防止のポイントについてお話をしたいと思います。

臭気の拡散状況

畜産を営む上で、臭気の発生をゼロにするということとは不可能です。そこで、排出された臭気がどの程度、どのように拡散しているかを知る必要があります。特に臭気問題が表面化するのには、梅雨時期、夏場なので、これらの時期にチェックしておく必要があります。この結果により、対策の必要性や方法等が明確になると思います。

悪臭の発生源

臭気は糞尿が分解される時に発生し、作用する微生物により異なります。一般に好気性微生物による分解は速やかなため悪臭物質の発生は少なく、嫌気性微生物が分解する時に発生する臭気物質が悪臭の原因となることが多いのです。糞尿の嫌気性分解（つまりは腐敗）を防止することにより、悪臭発生を抑制することができます。

汚水処理施設、堆肥化施設の臭気

糞尿処理施設では糞尿が集積するため、高濃度の臭気が発生しますが、臭気は発生場所が限られており、捕集が可能であるため、対策を実施すれば効果がみられやすいと考えられます。

汚水処理施設では、特に原水槽やスクリーン、振動篩等の固液分離機が発生源となります。これらは密閉化することにより、臭気の拡散は防止できます。要は「臭いものには蓋」ということです。

堆肥化処理施設では、酸素不足での嫌気発酵により、悪臭が発生するケースがみられます。これについては酸素供給を行い、好気発酵での堆肥化処理を行うことが重要です。しかし、これらの好気発酵でも高濃度のアンモニアが発生するため、脱臭設備が必要となり、おがくず脱臭等の低コストな技術が実用化されています。

畜舎の悪臭

畜舎から発生する臭気は、密閉・捕集することが難しく、脱臭処理は困難です。このため、畜舎内での悪臭発生防止に努めるしかありません。効果的な対策としては、床面のこまめな清掃と糞尿の速やかな搬出です。床面に残った糞尿は嫌気条件になりやすく、腐敗の進行と共に悪臭が発生します。また、尿に糞が混ざると、尿中の尿素からアンモニアが発生します。床面の糞尿は、悪臭の発生他に、豚に対しても病気の発生の原因になるなどの悪影響を与えますので、清掃はできるだけ励行したいところです。

畜舎臭気の対策

畜舎から発生する粉塵には臭気成分が付着しており、この粉塵を除去することで、臭気を軽減することが可能です。方法としては、樹木（常緑樹が望ましい）を植えるなどが有効です。また、視覚的にも豚舎が見えなくなるので、心理的に悪臭を感じるということが軽減される可能性があります。それでも臭気が問題となる場合には、換気口に細霧装置を設置し、粉塵を水吸着により抑えることも有効と考えられます。

<参考文献>

『畜産環境対策大事典』農山漁村文化協会

『畜産環境保全マニュアル』中央畜産会

（編集部註：「糞尿処理を考える」は今回で終了です）



嫁いで11年目

長崎県西有家町 伊藤ファーム **伊藤 恵子**

私は養豚業を営む家に嫁いで11年目になります。初めて見た豚の大きさにはびっくり！想像していたよりもずっと大きかったです。でも豚って結構おとなしくて可愛いなあ～とも。子豚の啼き声、おっぱいを飲んでいるところや寝ている姿を見ると心が癒されます。

今はいろいろ勉強の毎日です。幸せだなあと感じるのは、家族みんなが健康であることと、二人の女の子がいますが、その子たちが毎日元気で学校、保育園に

通う姿を見ることです。

子どもたちはお肉が大好きで、よく「お庭でバーベキューをしよう」とリクエストしてきます。「お家の豚肉はおいしいね～」という子どもたちの言葉は私にとって一番の喜びでもあります。

子どもをもってから、食品の安全性や品質ということにとっても気をつかうようになりました。

我が家でもSPF豚を飼育していますが、毎日水洗、消毒など健康に常に気を配って仕上げた豚ですから、子どもたちにも安心して食べさせています。

夫は子どもたちの面倒もよくみてくれています。夫のよき相談相手として、これからも夫婦二人三脚で頑張っていきたいと思っています。



秋田産SPF豚肉が大のお気に入り

千葉県浦安市 **大井 満江**

私たち家族は転勤族で過去30年間、九州から北海道、関西、関東と全国各地で生活してきました。男女一人ずつの子どももすでに成人し、近くに孫が3人おります。

子どもの食べ盛りにはいろいろと食費もかさみ大変でしたが、常日頃栄養のバランス、特にたんぱく質と野菜には気をつけてきました。

主人も私も、もともと山口出身ですので、お肉よりもお魚主体で育てられました。というのもお肉は高くて手がでない時代だったのでしょう。また、当時は学校給食にしても家庭の食卓にしても随分鯨肉がつかわれていたように記憶しています。今なら高級食材ですが。その他にはやはり豚肉より牛肉が多かったように思います。

私たちの食卓で豚肉が主流になったのは、平成5年に関西から関東に越してきた頃だと思います。店頭で豚肉の品数が多いのにびっくりしました。その前に暮らした関西や北海道の店では考えられないほど種類が多いのです。料理の目的や、家計費の中身を考えながらいろいろと選択できます。子どもたちと4人家族の時代

は、手ごろな価格でたっぷりと子どもたちに食べさせることができました。

5年前から主人との二人暮らしになりましたが、最近では近くのスーパーで買ってくる秋田で生産されているSPF豚肉がとても気に入っています。最初、SPFの意味がわからず、ただおいしさだけで買っていたのですが、ある書物で調べてみると、豚にとって重症で人間にも感染するような病気に感染させないで育てた肉とわかりました。

農家の方はその分、消毒やえさなどにも大変気をつけて育てている肉だそうです。豚肉はよく火を通さなければ、病原菌が付いていると、亡くなった母がいていたのを記憶していますが、SPF豚肉はその危険がとても低いと聞いていますので、我が家では主人の好物の「豚しゃぶ」を秋田産SPF豚でよくやります。さっとスープにくぐらすだけで安心しておいしくいただけます。普通の豚肉に比べきめも細かく豚肉特有のけもの臭が少なく、とてもおいしくて、我が家では定番料理となっています。おそらくビタミンなどもかなり破壊されずに残っていると思います。冬場の「豚しゃぶ」だけではなく、夏バテ予防にも効果があるようです。

これからもおいしいSPF豚肉をぜひいただきたいと思っています。

● 協会からのお知らせ ●

● 協会ホームページ用の写真を募集中

協会ホームページ上でもご案内中ですが、会員の皆さまの認定農場周辺の美しい自然風景やかわいい子豚など、自慢の写真をぜひ協会までお送り下さい。「豚舎のある風景」と題し、トップページにどんどん掲載していきたいと考えております。ゆくゆくは応募写真の中から大賞を選出、表彰も考えています。ふるってご応募下さい。詳細は協会事務局まで。

● ポークセミナーは11月に東京で

今年のセミナーは11月24日（木）東京・大手町のJ Aビルでの開催を予定しております。テーマ等については現在セミナー企画・実行委員会のメンバーを中心に検討を重ねております。詳細は本誌次号やホームページ上で随時お知らせしますので、ぜひご参加下さい。

● 生産情報公表豚肉のJ A S規格

ガイドブックを差し上げます

財団法人食品産業センターが『生産情報公表豚肉のJ A S規格ガイドブック』を作成し、協会にも無料で配付されました。部数に余裕がありますので、生産情報公表J A S規格導入に関心のある会員の方にお送りいたします。ご希望の方は、協会事務局までご連絡下さい。

● 認定委員会事務局の設置と委員の交代

S P F農場認定事業と認定委員会の独立性の強化を

を図るための一環として、柏崎守委員長が理事を退任され、委員長業務に専念されることとなりました。あわせて認定委員会事務局を新設、花岡秀昌氏（全農畜産サービス株）が事務局長に就任されました。

また、(株)シムコピラミッドの認定委員の三宅真佐男氏に代わり藤田世秀氏が就任いたしました。

● 協会代議員（順不同、敬称略）

<地区選出>山中茂樹（(有)山中畜産）、日浅文男（監事、(有)道南アグロ）、小田島健夫（(有)ケイアイファウム）、石川輝芳（理事、(農)しわひめスワイン）、太田正弘（(有)最上川ファーム）、倉持信之（理事、(有)山西牧場）、矢吹和人（(有)常陸牧場）、林 寛康（理事、(株)林商店）、清水貢（(有)清水養豚）、下山正弘（理事、(有)下山農場）、横山清（理事、(有)横山養豚）、松田宇一郎（(株)マルス農場）、代田修治（長野県農協直販株）、石原正敬（理事、(有)岡山ジェイエイ畜産）、本野憲一（監事、(株)ユキザワ）、平芳紘（(有)芳寿牧場）、田中正美（九州ノーサンファーム）、守山実夫（(農)守山畜産）、大和建一（(有)やまとんファーム）

<ピラミッド選出、理事>高橋吉男（シムコ）、吉田修作（全農畜産サービス株）、高橋俊幸（ホクレン）、秦政弘（(株)サンエスブリーディング）、端坊充央（伊藤忠飼料株）、矢嶋隆次（日本農産工業株）、高畑 隆（日本ハイポー株）

● 認定情報 ●

● 平成17年度認定農場

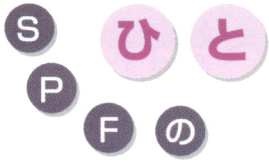
[6月認定] (有効期間：平成17年6月3日から18年6月30日まで)

北海道・(有)鈴木ビビッドファーム、青木ピッグファーム、(有)ゲズント農場、青森県・カワケンS P Fファーム、カワケンS P F第三農場、岩手県・F Vファーム、福島県・(株)フリーデン都路牧場、(有)東和牧場、仁井田農場、茨城県・(有)奥田農場、弓野畜産、新利根養豚組合、栃木県・(株)ノイバーン、群馬県・(有)タカハシファーム碓氷高原農場、千葉県・石毛宏司養豚、岡野朝雄養豚場、高橋幸雄養豚、塚本利昭養豚場、宮沢光男養豚場、(有)アグリ、吉田道養豚場、(有)藤崎農場、江波戸S P F農場、(有)下山農場、新潟県・外川畜産興業、兵

庫県・(農)八鹿畜産、鳥取県・西日本ジェイエイ畜産(株)名和農場、東伯町農協上馬場農場、東伯町農協矢下農場、岡山県・(有)荒戸山エスピーエフファーム、愛媛県・富永養豚場、山口養豚場、清昇養豚場、旭養豚場、(有)多田ファーム、長崎県・J A全農長崎県本部五島種豚供給センター、伊藤ファーム、浜田養豚、宮崎県・(有)レクスト、(有)ナガトモ、江夏商事(株)川南農場、江夏商事(株)御池農場、鹿児島県・(有)太陽畜産大口事業所、(有)太陽畜産牛鼻肥育センター、(有)サツマ高尾野農場第一農場、(有)サツマ高尾野農場第二農場

(以上46農場)

※次回認定委員会は平成17年9月9日（金）の予定



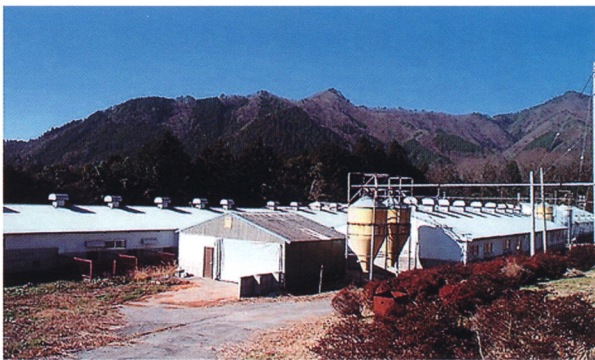
日本ハイポー(株)山口農場
大平 豊重さん
●山口県錦町

自衛隊から養豚業界へ転身 地元を愛する独身場長

小規模(100頭)ながら日本ハイポーピラミッドのG P農場である山口農場。その農場長である大平さんは、地元・玖珂郡錦町のご出身です。

錦町は広島、島根両県境に隣接し、中国山地の始まりで、寂地山、羅漢山の高峰を背に山地、林野が広がっているところ。面積約210平方キロメートルで人口は約4,200人、1平方キロメートルあたりの人口密度が20.1人という過疎化の進んだ小さな町で、2、3年後には近隣の7市町村と合併することが決まっています。町内にはオートキャンプ場が3、スキー場1、温泉3か所があります。

山の中の盆地ですが、農場からは中国自動車道の深谷パーキングまで歩いて10分、交通の便はよいところです。農場の下はその名のとおり「深い谷」になっており、山口県最大の河川である錦川の支流、宇佐川の源流が、美しい景観を形づくりながら流れています。こ



の川を下り岩国市に入ると、かの剣豪・佐々木小次郎がツバメを切って「ツバメ返し」を開眼したという有名な5連アーチの木造橋「錦帯橋」があります。最



近架け替え工事が終了し、花見シーズンや雪が橋に降り積もる頃などはとてもきれいだそうです。

大平さんの実家では牛を飼われていたそうですが、豚はハイポーに入社してから初めて見たそうです。自衛隊員だった大平さん、ふと目にしたテレビ番組で地元で養豚場があるのを知り転職を決意、養豚業に携わることになりました。もう20年以上も前になります。種雄豚の辜丸の大きさと、雌豚の乳の数に驚いたのをよく覚えているそうです。

6年前にSPF認定農場としてスタートしましたが、初めての受入れのとき、ひよわそうに見えたプライマリーの発育が非常に早いことにまたまた驚いたとか。当初は一般豚に比べて繁殖成績がやや悪かったのですが、現在はSPF豚の管理にも慣れ、一般豚以上の繁殖成績を上げ、健康な種豚を生産しています。

仕事に熱中するあまりか41歳の今も独身の大平さん。どこかの雑誌の「表紙カバーガールの逆バージョンになりそうだから」と、個人情報については映画(健さんとベイブ)が大好きということだけしか教えてくれませんでした。〇〇募集中だそうです。

(日本ハイポー(株)・高畑 隆)

編集後記

協会の法人化初の総会も無事終了しました。巻頭の会長の原稿にもあるように、任意団体として30有余年、会員各位、役員としてSPF養豚界、協会事業に携わり育ててこられた諸先輩に感謝するとともに、敬意を表したいと思います。今後はさらにSPF養豚がわが国の養豚会のリード役となり、消費者のさらなる信頼を得て、競争力のあるSPFポークを提供できるよう、関係者総力をあげてがんばりましょう！(哲)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは
有限責任中間法人
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第20号 2005年7月1日発行(季刊)
発行 有限責任中間法人 日本SPF豚協会
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail : j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 赤池 洋二
編集人 林 哲